



# あなたが大切にする人としての中心軸は？

～私の価値観、そして、差別に対する私のあり方を描く～

## ねらい ▶▶

- ・ 同和問題を通して、忌避意識や差別意識が、これまでの育ちの中での習慣などあたりまえとされているもの、メディアの影響、人からの伝聞など日常生活のさまざまな場面から無意識のうちに個人の価値観として培われることもあることに同和問題を題材に気づく。
- ・ 無意識のうちに培われた価値観を偏見や差別的な態度につなげない方法や、自分のあり方(ありたい姿)を考える機会とする。

## キーワード

中心軸、あり方(ありたい姿)、忌避意識、本音と建前、光と影の両面、時間軸

## 準備物

- コンセプト用紙 (タイトルとねらいを拡大し、趣旨説明の際にボードに貼り付けて説明。ホワイトボードに記入してもよい。)
- シート「ある日ネットに……」 1人1枚
- ワークシート「人権タイムライン」 1人1枚 ※A3に拡大して使用
- 資料1「2010年(平成22年)人権問題に関する府民意識調査結果(抜粋)」 1人1枚
- 資料2「I Have A Dream!」 1人1枚 ● 資料3「同和問題のこと」 1人1枚
- 名札セット(名札用紙・名札) 1人1セット ● 付せん 1人10枚程度
- マーカー 1人1本 ● もぞう紙 各グループ 1枚 ● マグネット 数個
- バインダー 1人1枚 ● ホワイボードと専用マーカー

## プログラムの流れ

- |     |                  |                             |
|-----|------------------|-----------------------------|
| 10分 | 1. 趣旨とルールの説明     | ● ねらいの説明など。                 |
| 25分 | 2. 名札書きとチェックイン   | ● 自己紹介とウォーミングアップ。           |
| 30分 | 3. 差別を私ごととしてとらえる | ● 忌避意識や差別意識を私ごととしてとらえる。     |
| 25分 | 4. 私が大切にする中心軸は？  | ● 差別解消に向けた自分のあり方やありたい姿を考える。 |

## 時間

## 詳細な手順

## ポイント

### スタート

# 1 趣旨とルールの説明

10分

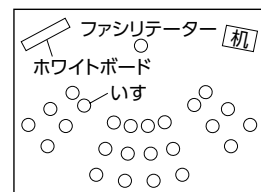


今日はワークショップ形式で学んでいきます。ワークショップというのは、講師が答えをもっているのではなく、参加者の皆さんがやりとりをしながら、考えを深めていく学び方です。

人権というと、難しく思われる方も多いかもかもしれませんが、できるだけ身近なところから考えていきたいと思っています。正解があるわけではありません。みなさんには、ふだんの言葉で、自分の思うことをおしゃべりしていただければと思います。

### 場のレイアウト

[半円形]



※参加者が使う机は端の方へ置く。

そのために、お願いがあります。この場では、「守秘」をルール(約束)としたいのです。守秘とは、ここで出された個人の経験や考えはこの場にとどめる(外に持ち出さない)ということです。

今日は、人権問題の中でも特に同和問題についての忌避意識や差別意識は、これまでの育ちの中での習慣などあたりまえとされているもの、メディアの影響、人からの伝聞など日常生活のさまざまな場面から個人の意識の中に価値観として培われることもあることを自覚して、その上で、無意識のうちに培われた価値観や偏見を差別的な態度につなげない方法や差別解消に向けた自分のあり方(ありたい姿)を考えてみたいと思います。

- 趣旨説明の際にプログラムのタイトルとねらいを拡大コピーして参加者の見える位置に掲示するか、ホワイトボードに板書して説明する。


10分  
経過

## 2 名札書きとチェックイン

25分


名札書き3分、チェックイン5分、2人組で自己紹介7分  
枕詞記入5分、枕詞を2人組で紹介5分

### 名札書き(呼ばれたい名前)

 はじめに、名札を書いてもらいたいと思います。名札には、このワークショップの中で呼ばれたい名前を書いてください。呼ばれたい名前なので、ご自身の名前でもいいですし、小さいころ呼ばれていたようなニックネーム、映画やマンガの登場人物などがあなたが呼ばれてうれしい名前でも自由に考えてもらってけっこうです。名札の上の3分の1ほどのスペースをあけておいてください。

- 名札用紙と名札を配付し、名前を書いてもらう。


### チェックイン(あなたはなぜここへ?)

 次にチェックインという活動を行いたいと思います。チェックインは、ホテルなどでまずチェックインをするように、ここでは場に入っていく心の準備として行いたいと思います。

付せんを配りますので、「あなたがここへ来た理由」を書いてください。

- 付せんを1人1枚配付し、「ここへ来た理由」を書いてもらう。

### 2人組で自己紹介

 これから、ペアになって自己紹介をします。近くの方と2人組を作ってください。お知り合いの方と近くに座っている場合は、少し移動して、あまり知らない方と組んだ方がいろんな方とお知り合いになれるのでいいかもしれません。5分ほど時間をとりますので、お互いに名前とチェックインで書かれたことを話してください。

- 2人組を作り、自己紹介をしてもらう。

<記入例>


こうちゃん

- 見えやすいように大きな字で書いてもらう。


- 参加者数が奇数の場合は3人組を作り、時間を少し長めにとる。

25分  
経過

### まくらことば 枕詞(大切にしていること)

 少し、お話をして心がほぐれたかと思います。今度は、先ほどあけておいた名札の上3分の1の部分に枕詞を書いてもらいます。そこには、あなたを紹介する一言として、あなたが大切にしていること(価値観につながることを)書いてください。これは、自分自身のことを開示することになるので少し時間がかかると思います。

●枕詞を個人で書いてもらう。

 今度は、違うペアになって名前とチェックインに書いたこと、枕詞を紹介し合ってみてください。このことは人それぞれが大切にしていることなので否定せず尊重することを大切にしましょう。

●違う2人組で枕詞を紹介し合ってもらおう。

- すぐに浮かばないかもしれないので例を挙げる。人と関わる時に大切にしていることや座右の銘など。例)和、思ったら即行動!、相手の目を見て話を聴く、自分自身のルーツに関わることなど。

<名札の記入例>

思ったら即行動

こうちゃん


35分  
経過

## 3 差別を私ごととしてとらえる

30分


説明と記入10分、2人組で共有5分、4人組で共有5分  
資料の説明10分

### 説明と記入

 先ほど考えていただいたのは、みなさんの価値観につながる部分です。価値観や思想は、これまでの育ちの中での習慣などあたりまえとされているもの、メディアの影響、人からの伝聞など日常生活のさまざまな場面から無意識のうちに個人の価値観として培われることがあります。もちろん、価値観や思想を持つことは自由です。ただ、物事には二面性があるように、それが過度に偏ってしまうともう一方を排除してしまうなどの危険性も持っています。


それでは、これから1つの例として、「家柄」や「土地」という具体的な価値観に関する具体的な事例をあげて考えていきたいと思います。

### 具体的な場面から考える

 シートでは「ある日、ネットに自分の住んでいるところが「同和地区」「被差別部落」だという書き込みがありました」という設定をしています。このようなことが実際にあった場合、あなたならどう考え、どう行動しますか?今から12通りの選択肢を提示しますので、当てはまる部分とその理由を書いてみてください。書いてみて感じたことは後で共有しますが、具体的に何を書いたかは見せ合いません。

●シートを1人1枚配付し、当てはまるものに丸をつけてもらう。その理由や感じたことも書いてもらう。(複数回答可)

### 2人組で共有

 先ほどの2人組で書いた内容を分かち合ってみてください。シートを見せ合ったり、何を選んだかを必ずしも言う必要はありません。感じたことを話し合ってください。


- 価値観や思想を持つことは自由だが、過度に偏ると危険な場合もあることを説明。

- 例えば⑩のような積極的なとらえ方もあるので、説明する時には、「困った事態に対応する」というニュアンスに偏りすぎないように注意する。

- シート末文に掲載されている削除依頼や窓口への相談方法を情報提供する。

- 参加者の中に同和地区に住んでいる人や、このような状況を現実に経験したことがある人がいる可能性を念頭においておくこと。


## 4人組で共有

 では、次に別の2人組と一緒に4人組を作ってください。  
今書いたり話し合ったりしたことについて、今度は4人グループで分かち合ってみてください。


• 意見交換が重要なので、必ずしも全体発表しなくてもよい。

55分  
経過

## 資料の説明(土地差別や結婚に際しての忌避意識)

 今からお配りする資料1「2010年(平成22年)人権問題に関する府民意識調査結果(抜粋)」をご覧ください。

●資料1を配付する。

 先ほどのシートの設定は、近年の人権問題に関する意識調査から見えてきた課題とも関連しています。大阪府が2010年(平成22年)に行った調査によると、約55%の人が、住宅を選ぶ際に同和地区の地域内は「避けると思う」または「どちらかといえば避けると思う」と回答し、自分自身や自分の子どもの結婚の際には、約21%の人が結婚相手が「同和地区出身者かどうかを気にする」と回答しています。

また、同和地区や同和地区の人に対する差別意識が残っている理由については、多くの人は、「昔からの偏見や差別意識をそのまま受け入れてしまう人が多いから」と見えますが、刷り込まれたイメージや周りの意見などに影響されている人も一定数います。

マイノリティと結婚すると不利なことが起こるかもしれないという漠然とした不安感や部落差別の歴史、これまでの同和対策の経緯・内容と現在の同和問題の解決に向けた取り組みなどを知らないまま、同和地区や同和地区の人についてのうわさ(表面的、断片的で否定的な情報が多い)から判断されていることも多いのではないのでしょうか。

では、今、残っている課題に対して私たち一人ひとりは何ができるでしょうか。それを次に考えていきたいと思えます。


65分  
経過

## 4 私が大切にしている中心軸は? ~We WishとI Will~

25分

説明とワークシート記入7分、付せんに記入3分、グループでの分かち合い5分、グループ発表5分、まとめ5分

## 時代軸で考える差別解消の取り組み説明とワークシート記入

 私たちに何ができるかの手がかりとして、時代軸でこれまでの取り組み、差別が減った現実、今の課題について考えていきたいと思えます。

●ワークシート「人権タイムライン」、資料2「I Have A Dream!」、もぞう紙、マーカー、付せんに配付する。



ワークシートは、同和問題における時代ごとの状況や取り組みを紹介しています。私たちの社会をふり返ってみると、厳しい差別状況に対する当事者の立ち上がりや、行政による格差是正に向けた取り組みがあり、かつての同和地区の状況は、大幅に改善されました。しかし、忌避意識などにみられるような差別の状況は残っており、それを乗り越えようとする人々の営みは現在も続いています。

資料2はアメリカで黒人差別が今より厳しかった時代に公民権運動を行ったキング牧師の演説です。当時、彼の描いた「社会のあってほしい姿」は、まさしく「夢」でした。しかし、45年を経て、2008年(平成20年)にバラク・オバマさんが大統領に就任し、初の黒人大統領が誕生しました。この2つをつなげて考えてみると、長い時間をかけたさまざまな取り組みの中で、社会は変えていけるということを実感していただけるのではないのでしょうか。



時代軸に沿って課題解決に向けた取り組みやそれに伴う社会の変化を考えていただきましたが、次に差別の解消に向けて、ワークシートに「こんな社会にしたい」と「私はこうありたい」の枠に自分が思うことを記入してください。たとえば、社会軸として、行政が人権教育や啓発活動を積極的に行う、人権について学校でしっかり教える。自分軸として、当事者と実際に会ってみる、人権学習に積極的に参加する。などが考えられますが、思いつくものを書いてください。

●ワークシートに個人で記入してもらおう。

### グループで共有



次に、その差別の解消に向けて、今どんなことが必要なのか、今自分にはどんなことができるのか、を社会軸と自分軸に分けて、それぞれ1枚の付せんにつき1項目を書けるだけ書いてみてください。

●付せんに個人で記入してもらおう。



次にその項目について、グループで分かち合ってください。まずもぞう紙にタイムラインの矢印を写してください。そのもぞう紙に先ほど書いた付せんを貼っていきながら分かち合いをしてください。

### 全体で共有

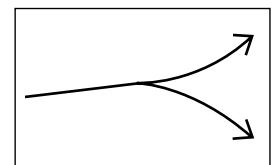


では、グループで考えたものを前に貼り出し、発表してください。

●グループで記入した紙をホワイトボードに貼り出し、発表してもらおう。

●ファシリテーター自身が差別解消に向けて必要だと思うことを自分の言葉で伝える。

<もぞう紙の例>





## まとめ



先ほどの意識調査の結果とも関連しますが、漠然とした不安が忌避意識につながる場合があることを考えると、このような意識を解消するためには、正しい知識を持つことが重要といえるのではないのでしょうか。また、差別の解消に向けて積極的に活動している人と出会ったり、一緒に活動したりすることが、差別意識の解消につながったという事例もあることから、積極的に交流する機会を持つことも重要かもしれません。

今日は近代以降の時間軸で同和問題を考えていただきました。同和地区に対する差別意識が残っているという「今」だけをみると、差別がなくなることは難しいと思う方もおられるかもしれませんが、長い時間軸でみてみると、改善されてきたことも多くあるのです。

また、現在と未来を考えるためにも、同和問題の歴史や社会的な背景を学ぶことも大切です。歴史研究の積み重ねにより、これまでの「あたりまえ」が見直されるようなこともあります。これまで同和問題について学んでこられた方も、改めて学ぶ機会を持っていただきたいと思います。

参考までに、同和問題に関するこれまでの取り組みや現状、課題解決に向けた積極的な取り組みなどをまとめた資料をお配りします。ぜひご覧ください。

本日は参加していただき、ありがとうございました。

●資料3「同和問題のこと」を配付する。

• 例えば、「土農工商」ですが、江戸時代にはそういう身分のくくりや序列はなく、「すべての人たち」というような意味であったことがわかり、現在の教科書では使われていません（「農工商」については、「百姓」「町人」という名称で学習しています。）。また、以前はピラミッド型の図が示され、「えた」「ひにん」と呼ばれる厳しく差別されていた人々を土農工商の下に置く説明がなされていましたが、現在の歴史教科書にピラミッド型の図は全くありません。こういった被差別の人々については、「百姓・町人とは別に、えた身分、ひにん身分などの人々いました」などと表現されています。

• ふりかえりを行う場合は、48ページのふりかえりシートを使ってもよい。